

【児童養護施設 柏葉荘「学び支援」】

★取組みについて

主として生活困窮家庭の中学生を対象に NPO 法人の学生ボランティアの協力で、当施設の部屋を使って無料で学力向上のための学習支援を実施。

★取組みを行って

近隣住民にとって児童養護施設の敷居が低くなったように思う。又、中学校の先生方との連携が生活困窮児童を通じてより深くなった。

## 【学習支援事業】

### ★取組みについて

当法人では児童福祉の事業所はありませんが、介護普及事業の学校訪問での中高生との関わりを持つ機会が増えたことで、より地域に住む学生について考えることが増えました。裕福になったと思われがちな現代ですが「学校と家」どちらにおいても生きづらさを抱えている子達がどこかにいると感じており、担当者同士で何かできることはないかと考えておりました。

介護普及事業の案内をする為に学校訪問をしていた担当職員が、各校の先生から伺ったお話をヒントにして、学生が集まれて、食事もできる場所を作りたいという提案を受けて、学習支援事業として取り組むことにしました。

### ★取組みを行って

学習支援事業と謳いましたが、コンセプトは「集まってご飯が食べられる場所作り」でした。そして全員無料で参加できるということです。すべての費用を法人から捻出できるか、賛同してもらえるかが不安な点でした。

#### ・実施原案として

- 1.施設近隣の中学生を対象とした学習支援事業を実施したい。実施期間は、学校が休みである夏休み、冬休み期間におこなう。
- 2.参加対象者は、当施設が校区内である中学校 1 校として、これから受験を迎える 3 年生のみに限定→長く続けていきたい活動であるため、捻出し続けられる費用の範囲でおこないたいと考えたこと、参加する生徒の心の負担にならない（貧困やいじめのケースに関わるかもしれない）範囲を考えて、このように設定した。
- 3.学習塾ではないので、基本的には学校の宿題や自身が行組みたい課題を持ち寄ってもらう自主学習とする。ただし退職教員や地元大学・高校生の協力を得て、勉強を教えられる体制も作る。  
※講師担当の方はボランティアではなく、短期アルバイト（時給）として参加してもらうこととしたい
- 4.参加者には全員昼食を用意して、食べてもらうこと。食事は講師・職員・学生全員で食べること
- 5.学習時間、昼食とすべての時間を施設職員も一緒に過ごす。担当は地域貢献推進委員（当法人にある委員会）にて交代でおこなう。
- 6.参加される学生は全て無料であること

といった提案をしました。最初はやはり「なぜ老人ホームで中学生を対象としたことをするのか？」という反応でしたが、法人にできる地域貢献のひとつであること、自分たちが取り組みたい活動であることと話すことで、最終的に「やってみたらいいんじゃないか」と本部から背中を押してもらえました。また職員からも応援してもらえたのが嬉しかったです。

・実施している内容

9：30～10：00 施設集合  
10：00 学習時間① 50分1コマとして10分間休憩時間  
11：00 学習時間②  
12：00 昼食・昼休憩 学校給食のように皆で配膳、輪になって食べます。  
13：00 学習時間③  
14：00 学習時間④  
14：50 片づけて帰宅

参加については、基本的に事前に午前のみ、午後のみ、終日と希望を確認します。どの参加単位であっても必ず昼食は食べてもらいたいことを伝えます。また、気が向かない場合は無理に参加せず必ず電話連絡することを約束してもらっています。中学生自身が電話をくれればよいとしています。その学生の安全が確認できることを目的としています。（親御さんに内緒で休んでしまう場合があっても、強制参加するものではないので、本人の判断に任せています）

夏休み：平日のみ実施で3週間（お盆前に終了）

冬休み：年末の1週間

で実施してきました。自転車で来られない程度の雨が降った時は、公用車にて送迎も実施。冬休み期間は原則全て送迎します。

学習時間中、わからない問題があった場合は、退職教員、大学生の講師担当の方に質問してもらいます。当初は、なかなか学生から質問できない（わからなくても聞けない）という日が続いたこともあり、中盤から数学のワンポイント講座も実施しました。これは参加されている退職教員の方による短い講義形式で、これまでの数学について振り返る時間です。わからない部分を聞けないでいる学生達も、その問題の解き方を見つけられる機会となりました。

また、入学試験の過去問題や市販の問題集も毎年買い足し活用しています。

実施してみて、感じたことは「多世代の人達が繋がる事は、参加している人全員にとってとても貴重な経験である」ということです。退職教員（70代）、施設職員（30～40代）、大学生（20代）、中学生（10代）が揃って過ごすことはほぼありませ

ん。何よりも実施している私たちが、本業そっちのけで毎日楽しい時間を過ごしています。

2016年 夏・冬合わせて 15 名参加

2017年 // 6 名参加→参加者が少なくて、少しもったいない気がした。もっと広く繋ぎたい

2018年 夏休みだけで 24 名参加→参加対象者を 1 年生から 3 年生までに拡大

#### 経費として

実施初年度は、昼食を提供するに当たり専用調理器具も購入することになり想定していた経費を少しオーバーしましたが、食材料費、人件費含めて年額 50 万円以内で取り組んでいます。これは他の事業所にお伝えする時も「年額 50 万円で好きなことをさせてもらっている」とお話しすると、自分たちも何かできそうと話してくれています。

#### 参加された学生・親御さんからの声として

- ・「勉強しなさい」と言われない環境で、ある程度の自由さが本人の自主的な取り組みに繋がっています。中間テストの成績も上がりました。
- ・共働きしている家庭として、昼食を提供してもらえるのは本当にありがたいです。食事は有料にしてもいいくらいです。
- ・親としてももっと勉強して欲しいと思い参加してもらったが、本人は、いつものクラスとは違うメンバーと過ごすこと、勉強以外で夏祭りの準備を手伝ったり、暑い日にアイスを食べて過ごしたりと、勉強以外の部分が楽しくて自分から参加日を増やして参加してくれた。家に帰っても勉強するようになった。
- ・どうしても大人が教えたがってしまうことが多い中、現在の自主性に任せたスタイルは子供たちに合っていると感じています。
- ・年末の年忘れ会に参加して二人ばおりをしたこと、とても楽しかったと嬉しそうに話してくれました。普段することのない経験もさせてもらったと思っています。
- ・雨の日に自転車を乗せて車で送迎してくれたり、本当に感謝しています。
- ・長期休みだけでなく、平日も実施して欲しい。参加したいと思う。
- ・学校の給食より昼食がおいしい。
- ・高校生や大学生と自分の年齢が近い人たちと話せるのはいい機会だった。
- ・(学校教員から) 学校では取り組みできない部分、また学習塾では費用的な面もあるので、誰でも参加とはいかない。そういったなかなか手が届かない面を埋めてくれる活動であると思っている。大変感謝しています。